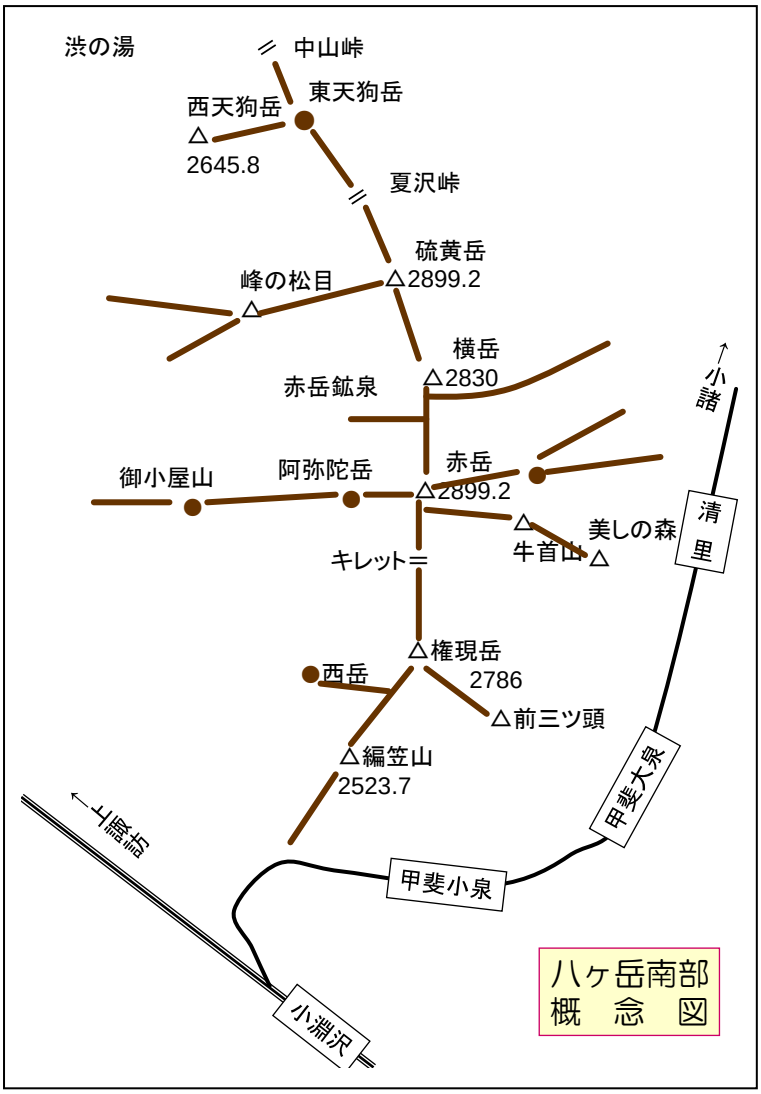
踏　み　跡　＜My　Mountains＞

八ヶ岳	渋の湯から小渕沢へ縦走	No.118

昭和４３年１１月２２日
恩田、石関と組んで三人でやる冬の山はこれが初めてではなかろうか。連休で最終列車が満員のため０時２０分発の臨時列車を選んだ。
冬の八ヶ岳はもうお互いに経験済みだが冬季の縦走は初の試みなので、この山行のアイデアが生まれた。
幕営にはツエルトを使用し、寝袋は勿論セミシュラフ、荷を軽くし１２～１５Kg。

昭和４３年１１月２３日
茅野５時１２分着。朝食を摂りバスを待つが、待ち行列の状況からするとかなり待たされそうな感じがする。待って満員よりもタクシーでということになり、他のパーティ二人を巻き込んで五人で一台チャーター。
有料道路からの朝の景色はいつに変わらぬスケールと迫力。
「これより上は道が悪いので・・・」と運転手に尻込みされて辰野館前で下車（¥1970）。15 分ほど歩き渋の湯にたどり着くと、ほどなく臨時バスを連ねて駅にいた満員の登山客も到着。混雑を避けてすぐに出発。
槍穂高を中心とした北アルプス連山の雪化粧した遠望は今更言うまでもない。
黒百合平まで二時間。陽だまりを選んで中休止。これから先で受ける季節風の洗礼を考えると、日だまりで食べるみかんは今生の名残とで言えそうな美味しさ。
摺鉢池を過ぎてしばらくで風との戦いが始まった。天狗岳１１時、手袋なしで網シャツ、登山シャツ、薄手のセーターだけで「負けてたまるか」と抵抗したが、さすがにたまらず皮手袋だけ着用。
夏沢峠で昼食（ミルクパン、バター、ハチミツ）。いよいよ２７００ｍを越えて最大の強風地帯に入るため、日向ぼっこで充分に体を温めながら小屋じまいの近い山小屋の娘としばし談笑。



まず硫黄岳へ５０分の登り。風が強いために確かに体感気温は低下しているが、過去の経験からなる動物的感覚から見ると、気温そのものはさほど低くはなさそうな気がする。
氷点下２０度の厳冬の体験を思い起こせば、まだ序の口。
横岳の岩場は雪がまだ少ししか付いていないため、通過には随分気を遣う。アイゼンがギィーっと音を立てようものならなおさらびくっとする。依然としてヤッケなしで歩いているので、胸と腹が冷えっぱなし、しかも腹も減ってくるし・・・。
１６時４０分赤岳石室に到着、腹が冷えすぎていささか不快。石室東側の斜面にツエルトを張る。本当は幕営禁止区域だが、シーズンオフだし、きちんと片づけますよということで許可を得た。
夕食は雑煮。石関は初めて強風下を一日歩いたせいか、疲れたらしく食欲がない。それに代わって恩田がいつになく元気で、餅四個。
２０時シュラフイン。星空がきれいなのはうれしいが、風がうるさくて閉口。気温はさほど低くはなさそうだ。

昭和４３年１１月２４日
起床４時３０分、天気は良いが東の空に細い帯状の雲があり気になる。

踏　み　跡　＜My　Mountains＞

日の出は６時、奥秩父から。朝食は餅入りラーメン。オーバーシューズとアイゼンを着用して７時出発。
赤岳への登りは雪も少なく２５分しかかからなかった。結局、雪の量から見てアイゼンがあっても危険なので外すことにしたが、薄く雪が凍りついた岩場の下りは怖い。注意深くゆっくりと下り、キレットに到達。
８時４５分、本日第一回目の昼食。キレット出発は９時３０分頃。
ここから権現岳への登りが八ヶ岳連峰中で最大の登り。しかも浮石もあり岩場の尾根で最大の難関。
ところが雪が少ないことが幸いして一時間余で突破。
権現岳からの眺め、北アルプス方面は雲にすっぽりと包まれて、やはり今朝の天気予想が的中していた。ほとんどの山が見えはするが、薄絹をまとったように霞んでしまって、昨日のような爽快な景色ではない。
編笠山の北側の青年小屋で二度目の昼食　１１時３０分。
残りの食料は全部犬にやり、身軽になって出発。
編笠を越えると、八ヶ岳名物小渕沢への一直線の４時間の下りが待っている。小渕沢駅着は１５時３７分。列車を待つ間にゆっくりと食事。
長い下りでやはり足が痛くなった。４時間足らずの下りで痛くなるとは、我々も老けたものだ。

以上